

# さわやかに たからかに とこしえに

秋田県立横手清陵学院中学校・高等学校 校長室だより第6号  
2020年10月9日(金)発行 文責 信田 正之

## 勉強でつまずいたら

あれだけ暑かった日々が嘘のように、いつの間にか朝夕が肌寒く感じられるようになりました。校長室だより第5号で書いた「暑さ寒さも彼岸まで」は、どうやら今年にも当てはまったようです。田園部では稲刈りが進み、林檎や柿の実が色づき始め、道の駅では天然のキノコが店頭に並ぶなど、「実りの秋」の訪れを感じます。高校3年生にとっては、進路をかけた大事な期間。これまでの学習成果が実を結び、全員が進路志望を達成できることを心から願っています。

さて、今週は中高とも中間考査の期間です。テストは普段の学習成果を確認する上で大変重要ですが、皆さんの中には勉強が苦手で不安を感じている人もいないでしょうか。「苦手」と感じるのは、どこかで理解が滞っている、つまり「つまずいている」証拠です。つまずきを克服できれば理解が進み、成績もアップするはずですが、問題はどうか克服するかです。ここで、私の経験談をお話ししましょう。

皆さんは、「 $1 \div 2$ 」がすぐ答えられますか。小学校時代に私が初めてこの問題に出会ったとき、答えは「2」だと考えました。「1個のリンゴを2つに割れば2個になる」という理論です。しかし、答えは0でも1でもない「 $1/2$ 」という分数。私はこの数字にもやもやしたものを感じてしまい、気づいたら算数そのものにも苦手意識を抱くようになっていました。そして、ある日の授業で、私のつまずきは決定的なものになります。先生が黒板に「 $1/3 + 1/4 =$ 」と書くと、おもむろに私を指名したのです。皆さんなら、「 $4/12 + 3/12 =$ 」と通分して、すぐに「 $7/12$ 」という答えが出せるでしょう。私も「通分の方法」は理解しており、 $7/12$ という答えも分かっていたのですが、そもそも「分数の意味」が理解できていません。答えが分かっている、納得できないものは答える気になれない。顔を真っ赤にして無言のまま立ち尽くしていると、お節介な周囲の友人が「 $7/12$ 」とささやいてきて、ますます意固地になる。結局、そんな様子を見かねた先生が「座っていいよ」と言ってくれなければ、私の一人舞台の幕はいつまでも下りなかったことでしょう。あの日の出来事は、数十年経った今でも忘れられません。

もしあれで算数が嫌いになっていたなら、今の私はなかったかもしれません。ただ幸いなことに、私にも小さいながらプライドはありました。あの日、私は急いで家に戻ると、すぐさま新聞の折り込み広告をテーブルに広げ、はさみで円形に切り、さらにそれを扇形に12等分して自作の教材を作りました。そして、その紙を組み合わせた見比べたりしながら、「分数の意味」という問いに挑んだのです。その日から、家でも学校でも分数のことばかり考えていました。そして、数日間、悩みに悩んだ末、突然、ひらめいたのです。どうして私が分数を理解できなかったのか。実は小学校低学年の算数で扱う数字は、ものを1個、2個・・・と数える手段でした。つまり「自然数」です。ところが分数は、数を数えるというよりも、ものの量や比率を表すのに便利な数字だったのです。正に「目から鱗」。それからというもの、私は算数が誰よりも好きで得意になりました。分数の意味さえ分かれば、どんな難しい計算も理解できたからです。

勉強でつまずくことは悪いことではありません。むしろ、つまずきは深い理解につながる大きなチャンスです。問題は、つまずいたときに何をしたらいいのか。私は、小学校時代の経験から、「原点に戻る」「意味や本質を理解する」「最初は自分で考える」ことだと考えて、今でも実践しています。ぜひ皆さんも、何かの参考にしてみてください。